

AMDA アジアで継続支援

アジア医師連絡協議会

(AMDA、本部・岡山市

榑津)は、第二次大戦の戦場となったアジア各地で、

継続的な医療支援を行う

「魂と医療のプログラム」

を二〇〇一年度から実施す

る。当面はミャンマー、

フィリピン、ベトナム、カ

ンボジア、インドネシアの

五か国を対象に行い、将

来はネパール、パプアニュー

第2次大戦の戦場

診療所建設と慰霊

ーギニア、台湾などにも広がる。既にベトナムにある旧日本軍の野戦病院跡地の診療所など四か所に診療所を設置する計画が具体化している。

計画では、大戦中に現地住民と日本軍関係者らが数多く犠牲になった地域で毎年、慰霊祭を開きながら、遺族らの健康管理を担う簡易診療所を建設。現地の医療スタッフを採用し、お金がないため病院に行けず、十分な医療が受けられない人々に診療を

行う。既にベトナムにある旧日本軍の野戦病院跡地の診療所など四か所に診療所を設置する計画が具体化している。

AMDAのメンバーが、天災や紛争などで傷ついた人を支援するためアジアを訪問した際、戦争で旧日本兵に家族を殺された人や兵に十分な医療が受けられず、十分な医療が受けられない人々に診療を

戦争の傷跡が今も残っている。

ることを痛感。犠牲者の霊を慰めながら医療活動を行うことにした。

今回のプログラムに備え、昨年十一月末には、診療所建設予定地に日本から

仏教などの宗教者計約十人を派遣。マニラ市ではキリスト教徒と、インドネシア

ではイスラム教徒らと合同で慰霊祭を開催し、犠牲者のめい福を祈った。管波茂

代表らは「単なる医療支援だけでなく、慰霊祭を行う

ことで現地の人の気持ちも大切にしたい」と話してい

る。

る。